

6. 介護現場における安全確保

- (1) 介護における事故予防や安全対策
 - (2) 介護職自身の健康管理
-

社会福祉法人常盤会

特別養護老人ホーム ときわぎ世田谷 高畑 健一

山崎 裕平

自己紹介(山崎 裕平)

介護経験 13年目
経験施設 介護療養型施設、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム
趣味・特技 スノーボード、鮭釣り

社会福祉法人常磐会

特別養護老人ホーム ときわぎ世田谷

開設日 2019年9月1日

定員 100名(本入居90名・ショートステイ10名)

全室個室 要介護度3～5の方が生活をされています

研修開始前に皆さんでレクリエーションをしましょう！

自己覚知、自己紹介ゲーム

自分を人に伝える、相手を知る、相手を紹介する。

- | | | |
|---------|-----|--|
| 個人ワーク | 3分 | ※用紙に自分の名前を書き、自分の事をかけるだけ書いてください |
| グループワーク | 15分 | ※1人あたり3分でグループの方に書いたものを参考に自己紹介をお願い致します。 |
| 発表 | 3分 | ※グループ内で紹介者する方、される方を選出 |

介護における安全確保とは

- ・ ご入居者への**事故**などのへの対策や安全への配慮
- ・ ご入居者の**プライバシーの保持**や**秘密の漏洩**

 福祉施設で働くスタッフには様々な面での**リスクマネジメント**技術が求められます

- ・ 介護事故
- ・ 個人情報や羞恥心への配慮
- ・ 感染症対策
- ・ 介護職員の健康管理

介護現場における事故とは

『高齢者の三重大事故』

転倒・転落・誤嚥(窒息)

【その他】・誤薬、服薬忘れ　・離設　・異食
・胃ろうチューブの抜去

転倒・転落

- 転倒

立ち上がった際や歩いている時に転倒され

骨折や打撲などのケガを負い、今まで出来ていたことが出来なくなってしまうリスクが高くなってしまいます。

【対策】

- その方の歩行能力を把握し、杖や歩行器など福祉用具の選定や家具の配置を工夫します ※必要に応じて、付き添いのもと歩いていただく
- 床材を見直し、クッション性のあるじゅうたんやマットを敷くことも考えられます

転倒・転落

- ・ 転落

椅子や車椅子、ベッド、入浴用リフトなどから転落され

転倒と同様、骨折や打撲の外傷を負うリスクが高くなります。

頭を強く打つと、脳出血に至ってしまうケースもある為

適切な対応が必要である ※要経過観察、必要に応じて救急搬送

【対策】

- ・ ベッドの高さを低くしたり、要望を聞き対策を考えます
- ・ 機材を正しく使用し、安全なサービスを提供する

主な福祉用具

【杖の種類】



【歩行器の種類】



誤嚥

- 誤嚥

食事や水分を嚥下(飲み込む)する際に、誤って気管に入ってしまうこと
肺炎に至るケースも多い

【対策】

- 姿勢が傾いていないか、顎が上を向いていないか、適切な姿勢をとる
- テーブルや椅子の高さなど環境を見直したり、介助が必要な場合、介護者は椅子に座って介助をするとよいでしょう
- 誤嚥しやすい食べ物はとろみをつけたり、刻んだりします
- ひとり一人に合った食事形態を提供します

むせやすい食品 一覧

水分が少ないもの	高野豆腐、パン、カステラ、餅、クッキー イモ類など
口の中にくっつきやすいもの	のり、わかめ、にら、ほうれん草、もなかの皮など
むせやすいもの	お茶、水などさらさらした液体。酢の物など 酸味のあるものや香辛料など
小さいもの	豆類

食事の形態

①ミキサー食

②ゼリー食

③ソフト食

④極刻み

⑤刻み

⑥ひと口大

⑦常食

誤嚥リスクが高い方



誤嚥リスクが低い方

ご入居者の嗜好に配慮したメニューで見た目も味も、季節感にも配慮した提供の方法をすることで、安全性だけでなく生活の質も維持していくようにします。

誤薬


薬を飲む必要のないご入居者に対して、誤って服薬の介助をすることを誤薬と
いいます。

誤薬には、処方された時間とは異なる時間に薬を飲んでしまうことや他人の薬を
飲んでしまうことなどがあります。

誤薬は、ご入居者の身体に悪影響を与える恐れが高い事故となります。

間違えない工夫 一例

- ①薬の袋を色分けして服薬の時間帯を明らかにする
- ②一包化されていない薬は、個人ごとに小さな袋に入れてまとめる
- ③個人ごとの袋にはご入居者名を記入する
- ④服薬介助時は、服薬介助するご入居者の薬のみを手にして、他の薬は薬箱から出さない
- ⑤服薬介助は、他の業務と並行して行わない

 名前を見る、呼ぶ、ご入居者本人か確認する、服薬するという手順を行い誤薬を防ぐようにしましょう。

誤薬を回避するための対策(弊社での取り組み)

看護師がセットした薬を
介護職にて間違いがない
か確認する。
(氏名・日付・時間)

内服前に再度確認する。
※薬を提供前に再度袋を
確認。

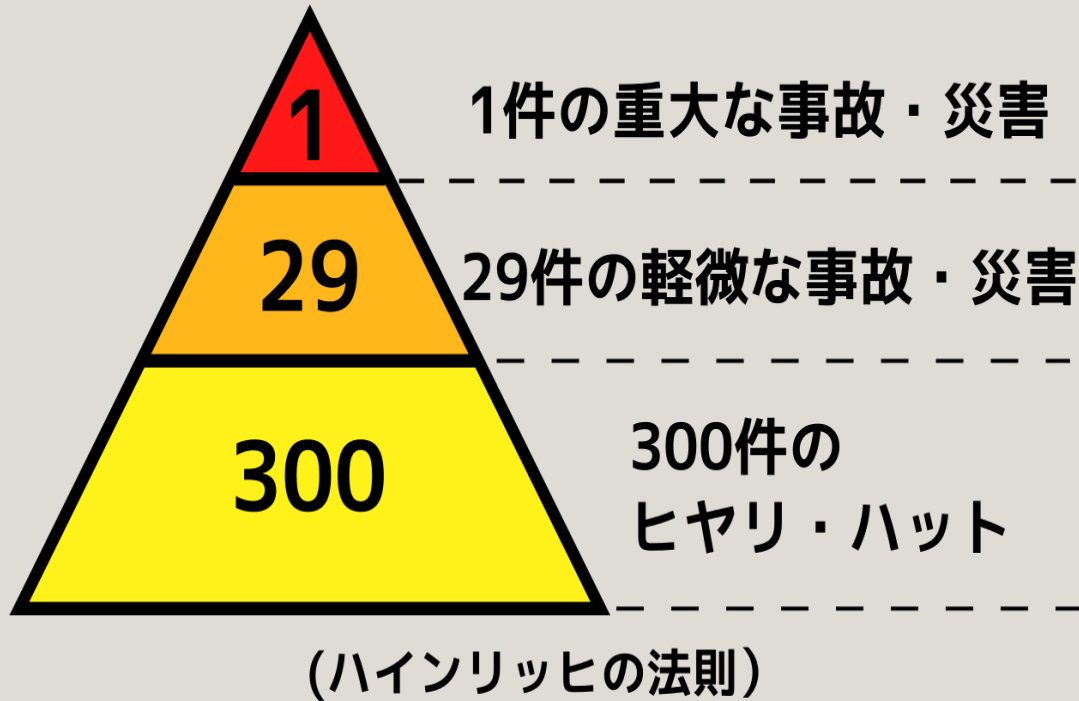
看護師がケースに飲み残
しがないか確認。

内服

声に出して氏名を呼ぶ

しっかりとお薬を飲めたか確認し、
内服後は都度、感謝をお伝えします

事故予防



「ハインリッヒの法則」では
1件の「**重症**」を負うような重大事故の
背景には**29件**の「**軽症**」を伴う事故があり、
その背景には**300件**の「**ヒヤリハット**」が
存在するといわれています。

ヒヤリ・ハットとは

介護を行う中で、事故にはならなかったが、事故に繋がりそうな状況を示し、「ヒヤリ」とした「ハッ」としたといったことをいいます。こうした状況を収集しておくことで、事故を未然に防ぐ手立てができます

例

「このまま歩いていくと、足元のコードに引っ掛かり転倒してしまうかも」

KYT(危険予測トレーニング) グループワーク

【図を見て事故に至る可能性があることを考えてみましょう】

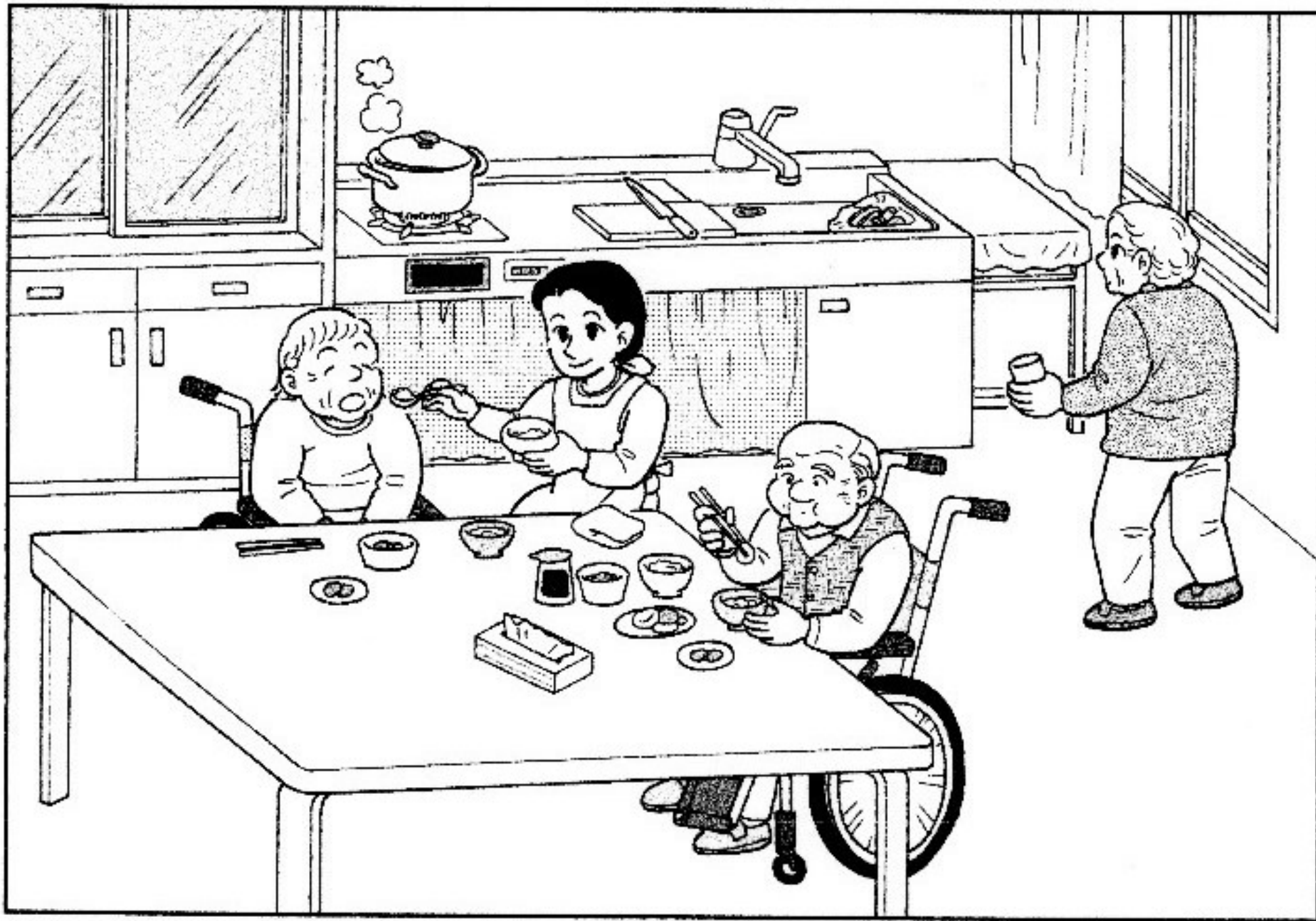
※進行役、書記、発表者を1名ずつ決めて頂き各グループで話し合ってみましょう。
(5分)

考察後、グループごとに発表をして頂きます。

例題①

あなたはリビングで、ご利用者の食事介助をしています。

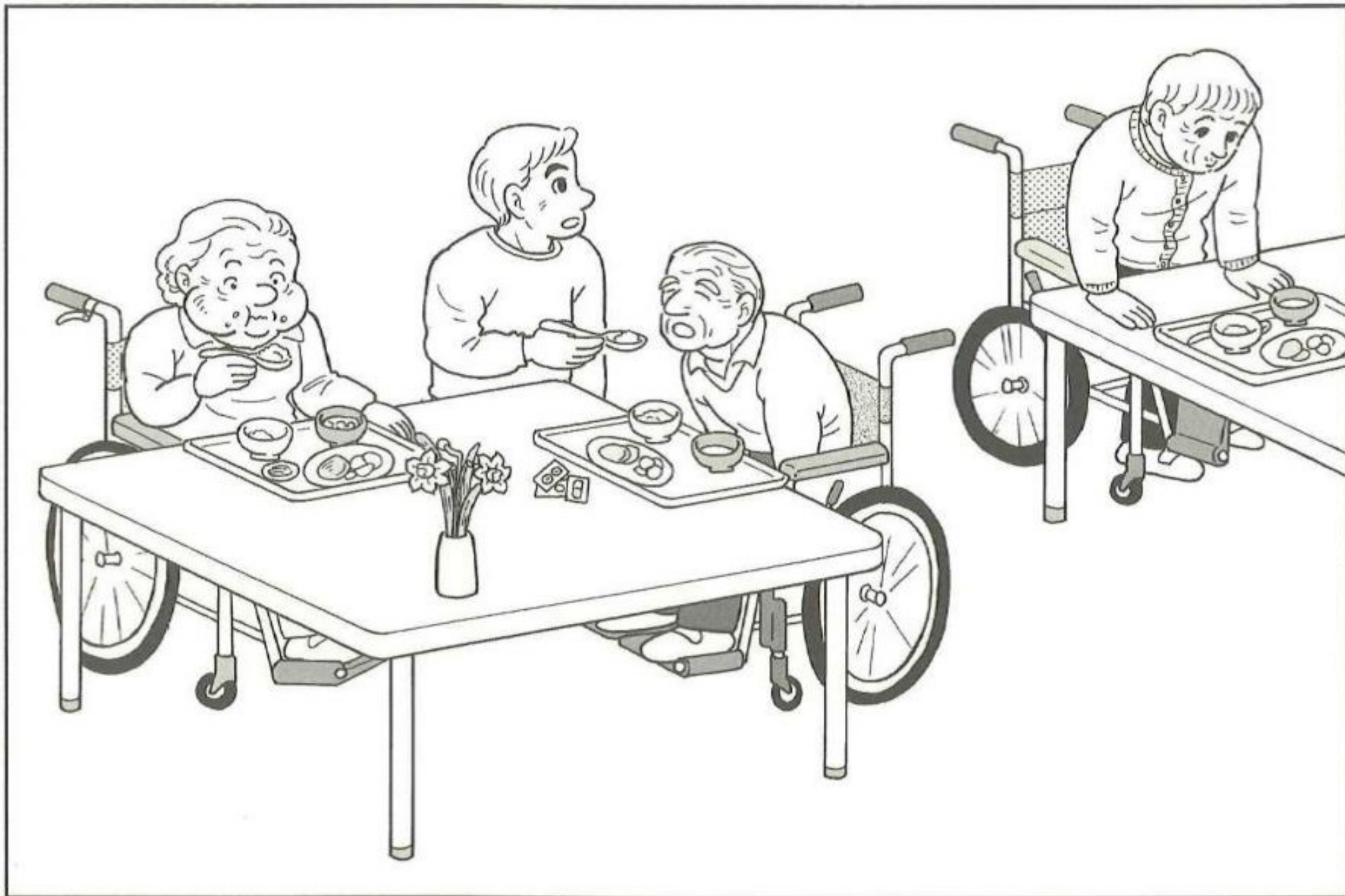
右の絵から想像できるヒヤリとする部分を考えてみましょう。



例題②

あなたはリビングで二人のご利用者の食事介助をしています。

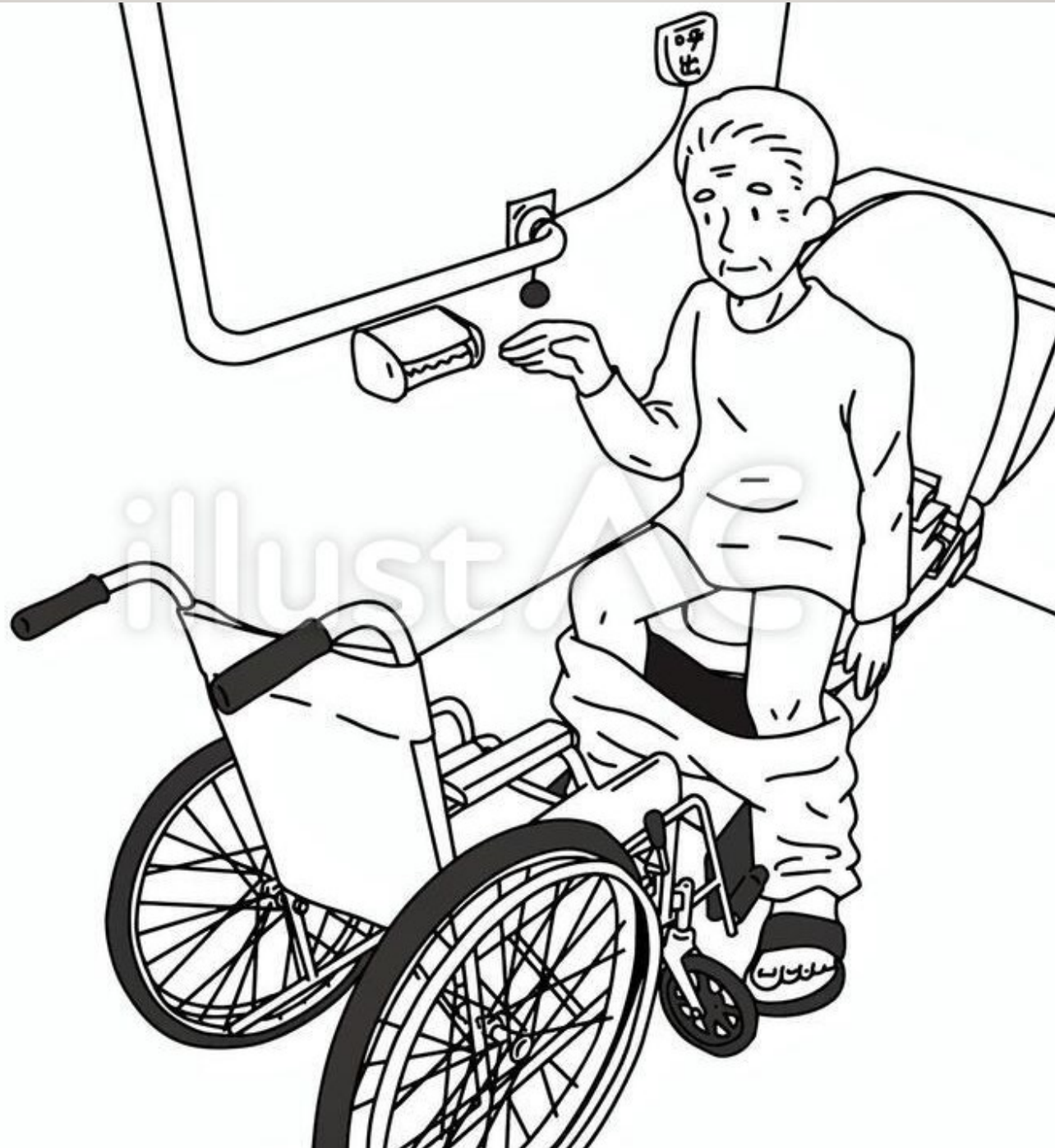
右の絵からヒヤリとする部分を考えてみましょう。



例題③

トイレを終えた
ところです。

右の絵からヒヤ
リとする部分を
考えてみましょ
う。



自己紹介(高畑 健一)

介護経験 18年目

経験施設 特別養護老人ホーム

ときわぎ世田谷開設の2019年より従事

事故発見時の対応

【応急手当】

事故が起きた時にご利用者を救急隊に引き継ぐまで、症状を悪化させずに生命を維持するための手当のことです。

応急手当が必要な場合は冷静な対応が求められます。外傷、骨折、火傷、誤嚥の際の対応方法を予め確認しておくこと緊急時に慌てずに対応することができます。

①観察の方法

意識があるか	対象者の肩を軽く叩きながら耳元で呼びかけて反応を見ます。反応がない場合は、手の甲をつねって反応をみます。
呼吸しているか	胸腹部に上下の動きがあるかを見たり、鼻や口元に頬を近づけ、息を感じるか等で呼吸を確認します。
顔色はどうか	顔色や口唇の色を確認します。青白い色や紫色の場合は、血圧や酸素状態の低下などがあり、緊急性が高い状態です。
出血はあるか	出血の場所とその程度について確認します。更に傷、痛み等の有無とその状態についても注意深く観察します。

②対応例

対象者への励まし	対象者のそばを離れず、安心できるような言葉をかけ、励まします。
安静	対象者の状態（傷や痛みの程度）に合わせて、適切な体位を保ち、安静に努めます。
保温	体温を保つため、寒くならないようにします。
協力者を求める	周囲にいる人たちに、必要に応じて119番通報やAEDの手配を依頼します。

個人情報取り扱い

「個人情報」とは

「個人情報の保護に関する法律」において、「生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と安易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）をいう」とわれています。

個人情報取り扱い

【具体例として】

氏名、生年月日、性別、住所

この4情報は住民基本台帳から、誰もが容易に入手可能であり、「住民基本4情報」などと呼ばれています。これだけあれば完璧に個人を特定できます。

個人情報取り扱い

他にも

「電話番号」、「勤務先」、「職業・職種」、「国籍・人種」、「本籍」、「家族構成」、「学歴」、「職歴」、「結婚・離婚歴」、「賞罰」、「趣味・嗜好」、「所得」、「取引銀行・クレジットカード情報」、「信仰・宗教」、「身長・体重」、「血液型」、「写真（肖像）」 等があります。

介護に携わることは、上記のような個人情報を得やすい（知りやすい）立場となります。利用者の個人情報を守ることは、利用者及びその家族の尊厳を保持することにつながります。

プライバシーとは

プライバシーとは、一般に、“他人の干渉を許さない、各個人の私生活上の自由”をいうと考えられています。いいかえると自分が他人に知られたくない情報のこと 「総務省によるプライバシーの定義」より

○プライバシー＝他人に干渉されたくない、知られたくないと
感じる私的領域全てがプライバシー

○個人情報＝特定の個人を識別できる符号

※個人情報はプライバシーの一部

プライバシーの尊重と秘密保持の義務

① 介護職は利用者の個人的な領域に入りながら介護をする

適切な介護サービスを提供するためには、利用者の身体状況、生活歴、価値観、家族関係などを知ることが必要となります。

しかしながら、必要な情報以外の情報を詮索しないようにしましょう。これは、プライバシーの侵害にあたります。

プライバシーの尊重と秘密保持の義務

② プライバシーの秘密保持

介護職の個人情報の取り扱いに関しては、「介護保険法」などの法律でも定められています。プライバシーに関わることについては取り扱う時には、以下のことに注意していきましょう。

- ・ 介護サービス開始に当たり、個人情報を共有することを文書にて説明し、同意を得ること
- ・ プライバシーが確保される確実な場所で話し合うこと
- ・ 情報を共有しなければならない場所（利用者の自宅、職場など）以外は利用者の話はしないこと
- ・ 個人の情報が書かれた書類（ケースファイルなど）が簡単に目に触れないように、鍵のかかったロッカーやキャビネットにしまい、管理を行うこと
- ・ 介護職員は退職した後も、知り得た情報は漏洩しないこと

介護におけるプライバシー保護

○入浴介助時の配慮

肌の露出が増える場面のため、不必要な露出を避ける、身体の状態を不必要に大きな声で言わない。

○排泄介助の配慮

羞恥心や不快感を持っている前提で対応。排泄物の情報を大きな声で言わない。

○更衣介助・おむつ交換

デリケートな部分を見せるため「恥ずかしい」という気持ちを持っていることを前提として対応。不必要に露出をしないように配慮する。

感染症とは

私たちの生活空間には、目に見えませんが、あらゆる所に種々の病原微生物が棲んでいます。このような微生物（細菌、ウイルス）がヒトの体内に侵入して増殖し発熱や下痢、咳等の症状がでることをいいます。

高齢者ケアの現場ではインフルエンザや疥癬の発生が多く、ノロウイルスなどの食中毒の発生も問題となっています。

感染の仕組みと予防対策

①感染源

②感染経路

③感受性のある人

感染の仕組みとして、上記の3要素が必要となります。

感染拡大防止にはこの3要素のつながりを断ち切れれば、感染症予防の徹底が図られることとなります。

①感染源の排除

- 感染源とは、細菌、ウイルスなどを持つ物や人のことで食品、患者等を言います。
- 感染源となる可能性があるもの
 - 排泄物（嘔吐物、便、尿など）
 - 血液、体液、分泌物（痰、膿みなど）
 - 使用した器具、器材（刺入、挿入したものなど）
 - 上記に触れた手指で取り扱った食品など

素手で触らず、必ず使い捨て手袋を着用しましょう。また、手袋を外した後は、手洗いをきちんとしましょう

②感染経路の遮断

感染の種類	感染経路	主な感染症
空気感染	病原体が空気中を浮遊して感染する	結核、麻疹、水疱瘡等
飛沫感染	咳、くしゃみ、会話などに含まれるしぶきによって感染する	インフルエンザ、コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎
接触感染	皮膚、手指、食器、器具を介して感染する	疥癬、腸管出血性大腸菌等
血液感染	輸血、性行為などによって感染する	B型肝炎、C型肝炎、HIV感染症等

手洗いとうがいを励行しましょう。環境の清掃も重要です。また、血液や体液、排泄物などを扱う時は、手袋を着用すると共に、飛び散る可能性がある場合に備えて、マスクやエプロンの着用も検討しておくことも大切です。

③人間の抵抗力の向上

- 日頃から免疫力がつくように気をつけておくことが重要です。
誰もが感染症にかかる可能性があります、抵抗力の弱い高齢者は感染症にかかりやすくなります。

免疫力向上のため

- ア、栄養を摂る
- イ、休養を取る
- ウ、予防接種を受ける
- エ、適度な運動をする

などして免疫力の向上を図りましょう

介護現場での主な感染症とその予防

種類	症状	予防・治療対策
インフルエンザ	突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強い。また、喉の痛み、咳など呼吸症状もみられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・流行前に予防接種を受ける ・帰宅後、手洗い、うがいを行う ・適度な温度、湿度を保つ ・栄養と休養を十分に取る ・薬物治療（タミフル、リレンザ、イナビル等）
疥癬	感染してから1ヵ月頃より、身体にじんましんやあせものような発疹ができます。非常に強い痒みを伴います。	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類、シーツは毎日交換しましょう。 ・衣類は50℃以上のお湯に10分以上つけてから洗いましょう。 ・衣類、寝具はその人専用にししましょう。
尿路感染症	38℃以上の発熱、背部の痛み、排泄時の痛み、尿が近い、血尿などがみられます。	<ul style="list-style-type: none"> ・性器、陰部を清潔に保ちましょう。
ノロウイルス	吐き気、嘔吐、腹痛、下痢など	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の加熱処理（85℃以上、1分間の加熱）をこころがけましょう。 ・嘔吐物や排泄物を素手で触らないようにしましょう。 ・手洗いをしっかり行いましょう。 ・二次感染を予防するため、トイレ清掃や手すりなどを次亜塩素酸ナトリウムで拭き掃除をしましょう。

介護現場での主な感染症とその予防

種類	症状	感染経路	予防・治療対策
コロナウイルス	発熱、呼吸器症状（咳、咽頭痛）、頭痛、倦怠感（だるさ）など。 下痢、嘔吐、嗅覚・味覚障害も起こることもある。	<ul style="list-style-type: none">・ 接触感染・ 飛沫感染・ エアロゾル感染	<ul style="list-style-type: none">・ 帰宅後、手洗い、うがいを行う・ 適度な温度、湿度を保つ・ 室内の換気・ マスクの装着・ 栄養と休養を十分にする・ 薬物治療（ラゲブリオ、ゾコーバ等）

感染症に対する基本的態度

感染の予防にあたっては、次のような基本事項を遵守することが大切です。

①手洗いを励行する

「1行為（ケア）1手洗い」、「ケア前後の手洗い」が基本です。

②感染源となる汚物を取り扱う時は使い捨て手袋を着用する。

必要に応じて、マスクやガウンなどを着用し、使用後は裏返しにしてたたみ、処分します。

【手洗いの注意事項】

- ①時計や指輪を外す
- ②必ず初めに流水で洗う
- ③複数の人が触れる固形せっけんではなく、液体せっけんを使う
- ④雑になりやすい部分は注意して洗う
- ⑤使い捨てのペーパータオルを使用する
- ⑥水道栓は洗った手で止めるのではなく、手を拭いたペーパータオルで止める
- ⑦洗った後は手を乾燥させる

感染症発生時の対応

感染症あるいは食中毒が発生した時に、またそれらを疑われるような状況が生じた場合には、被害を最小限にとどめることが必要です。

具体的には、隔離の必要性の有無や、どの程度の隔離が必要か等の検討が必要です。医療関係者と相談するとともに、職員が感染を広げることのないよう、全職員で周知徹底が必要です。

感染症発生時の対応

①発生状況の把握

- ①症状の確認：下痢、嘔吐、発熱等の症状について確認する。
- ②施設全体の状況の把握
 - ・日時別、フロア、部屋別の発症状況を把握（職員も含む）
 - ・受診状況、診断名、検査結果及び治療内容の確認をします。
 - ・普段の有症者数（下痢、おう吐当の胃腸炎症状、発熱等）と比較します。

②感染拡大の防止

- ①職員への周知
 - ・施設管理者は感染症などの発生状況を関係職員に周知し、対応の徹底を図ります。
- ②感染拡大防止策
 - ・手洗い、排泄物・嘔吐物の処理方法を徹底して実行します。
 - ・消毒の頻度を増やすなど、発生状況に対応した施設内消毒を実施します。

感染症発生時の対応

③関係機関等への連絡

①施設医への連絡

重篤化を防ぐため、適切な医療及び指示を受けます。

②利用者家族への連絡

発生状況を説明し、健康調査や二次感染予防について協力を依頼します。

③保健所、区市町村等の社会福祉施設等主管部に連絡をして、対応について指示を受けてください。報告の基準は次の通りです。

社会福祉施設等における感染症など発生時に係る報告について (平成17.2.22発一部抜粋)

- ア 同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる志望者又は重篤患者が1週間以内に2名以上発生した場合。
- イ 同一の感染症若しくは食中毒の患者またはそれらが疑われる者が10名以上または、全利用者の発生した場合
- ウ ア及びイに該当しない場合であったも、おう吐や下痢症状のある者が通常の数を上回る場合

おう吐物の処理

- おう吐物の処理は処理する人自身への感染と、施設内への汚染拡大を防ぐため、適切な方法で、迅速、確実に行うことが必要です。

○あらかじめ用意しておく物品

使い捨て手袋、マスク、ガウンやエプロン、拭き取るための布やペーパータオル、ビニール袋、次亜塩素酸ナトリウム、専用バケツ、その他必要な物品



排泄物・嘔吐物処理の手順

1 汚染場所に人が近づかないようにし、大きく窓を開けるなどして換気します



2 使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用します



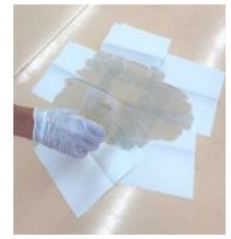
3 嘔吐物は、使い捨てのペーパータオル等で外側から内側にむけて、静かに拭き取ります



4 使用したペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れます



5 嘔吐物が付着していた床とその周囲を0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませたペーパータオル等で覆うか、浸すように拭きます



6 使用したペーパータオル、手袋等はすぐにビニール袋に入れ、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度に入れ、消毒します



7 ビニール袋の口をしっかりとしばります



8 処理後は、しっかりと手洗いをします



厚生労働省
「感染対策普及リーフレット」より引用

介護職自身の健康管理

①十分な休養と睡眠をとる

十分な休養と睡眠をとり、その日の疲れはその日のうちに解消することが大切です。自分の好きな趣味活動を行うことは休養につながります。入浴もリラックス効果があるなど、良質な睡眠を促す作用があります。

②バランスのとれた食事

様々な食品をバランスよく食べることで体調を整えたり、栄養を摂ることが出来ます。免疫力を向上させる一つに助けになります。

介護職自身の健康管理

③感染症の予防

インフルエンザが流行する前に予防接種を受けることや、日頃から、手洗い、うがい、バランスのとれた食事、十分な休養と睡眠を心がけ免疫力を高めましょう。

④腰痛予防

腰痛防止体操を行ったり、身体介助の際にはボディメカニクスの原則を意識した活用したりしましょう。また移乗介助の時は、福祉用具（スライディングシートやスライディングボードなど）を使って腰痛予防に役立てましょう。

介護職自身の健康管理



スライディングボード



スライディングシート

介護職自身の健康管理



介護職自身の健康管理

⑤こころの健康管理

心の健康管理も大切です。心の健康とは、生き生きと自分らしく生きるための重要な条件で、次のようなことを意味しています。

- 自分の感情に気づいて表現できること（情緒的健康）
- 状況に応じて適切に考え、現実的な問題解決ができること（知的健康）
- 他人や社会と建設的でよい関係を築けること（社会的健康）

介護職自身の健康管理

人生の目的や意義を見出し、主体的に人生を選択すること（人間的健康）も大切な要素であり、心の健康は「生活の質」にも「仕事の質」にも大きな影響を与えます。

ストレス対策として、介護職自身のストレスに対する対処能力を高めることが大切です。

自分自身のストレス状態を把握し、自分に合ったリラックス法をみつけて気分転換を図りましょう。

TOKISETA サマーパーティーのご様子



ご清聴ありがとうございました